勢観上人鑽仰御和讃





(歌詞は105ページ)

ポイント注意

やさしく物語るように。

せいかんしょうにんさんごう 勢観上人鑽仰和讃

高津 ときを 作詞

- な な せいかん しょうにん 南無や勢観 上人の 七百五十年 議意 おいばびて 恩徳を 讃えまつらん とこしえに
- 2 父は平家の 公達と その名知られし 若大将 沈みたもうぞ 痛わしき
- 忘れ遺覚を 仏門に 送り手離す 子別れの ながな 涙悲しき 田ごころ
- 4 乱世の星 吉水の 聖にあずけ まいらせば 名をば「源智」と 嬲りて 常随給仕 十八年
- 5 病いの床に 遺訓の 一枚起請 授かりて 報恩の念 やみがたく 刻むは三尺 弥陀の像

- 6 胎内深く 納めたる 結縁の名は 五万人 化物利生を 皆として かんじんりじり 勧進聖の 道を行く
- 7 嘉禄の難に
 繋をれし **知恩教院 復興も** 先師上人 追孝の 心ゆかしき 弟子の礼
- 3 はかなき親の とどめてし 8 加茂のほとりは ささき野の 河原屋にこそ 芳躅の あとを留めて ゆくりなく 今生の縁 尽きたもう
 - 9 潜位元年 十二月 時に春秋 五十六 その遺跡を いみじくも 対認寺とこそ 名づけたれ
 - 10 法灯いまに 輝きて ではたる 数珠光る これぞ勢観 上人の 素気のいのちと 備ぐなり (永久のいのちと 一位ぐなり)

(楽譜は 106ページ)